

平成 31 年 4 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 31 年度 第 4 回

新元号「令和」

最初に、元号についてお話致します。先日、大宰府に行って来ました。大宰府天満宮の奉納吟詠に参加したのですが、新元号「令和」の由来の地として一躍有名になった坂本八幡宮にも行きました。坂本八幡宮には 3 つの書体を使って「令和」と書かれた額が置いてありました。写真を撮って来ましたので回覧致します。

我々は陽明学をベースに学んでいます。陽明学は、現地に行って現物を見て、直接話を聞くことが基本です。何事も現場主義です。それが分からなくなっているから、日本人は駄目になったのだと思います。

本日の紹介書籍は、『皇位の継承—今上天皇のご譲位と御代替わりの意義』（新田均著 明成社）です。これは、「みよがわり」と読みます。マスコミ等では「代替わり（だいがわり）」と読むことが多いです。憲法違反にならないようにという今の政府に対する忖度なのかもしれませんが、皇室に関することはそれ用の言葉を使うのが日本文化のしからしむるところだろうと思っています。

もう一冊は、たちばな出版の『伝統と革新』という雑誌です。「天皇御譲位・皇位継承と永遠の日本」という特集で、曾野綾子さんが皇后陛下とお話をされている内容がおもしろかったので御紹介します。

それと、東京フォーラムの会員さんから戴いた改元に関する朝日新聞の切り抜きをまとめたものを一緒に回覧します。その中に、新元号の考案者の一人である石川忠久先生に取材した記事がありました。元号の考案者は誰か、新聞などメディアは一所懸命調べるわけです。石川先生が提出した元号案では最初、聖徳太子の 17 条憲法にある「和をもって貴しとなす」から採った「和貴」が筆頭案に位置付けられたようです。しかし「和貴」は採用されずに、結果的に「万和」が最終案に残りました。石川忠久先生ご本人は当然漢籍から採られるでしょうが、最近の状況を見て、国書からも提案されたのでしょうか。安倍さんは総理大臣就任当初から元号は国書からと言いつけているので、周りが皆それを忖度するわけでしょう。

「令和」という案は、最初はなかったようです。安倍内閣としては国書から採りたいものだから、色々な所に顔を立てながら、万葉集であれば良いとなって、その中でも漢文であれば漢籍の顔も立つと考えて、土壇場で先生方に再度提出して貰った中から万葉学者の中西先生に出して貰った「令和」を本命にして、有識者会議に出したのでしょう。ですから安倍さんは、あちこちに配慮しながら自分の想いを通したのだと思います。その数日後、有識者による懇談会を開き、衆参正副議長に意見を聞き、最後に全閣僚を集めて会議をし、ようやく決定となったわけですが、その際、「令和」について一番長い時間をとって詳しい解説がされたので、政府はこれを推しているのだと感じた・・・と、或る閣僚がぼろっと明かしたという記事がネットに出ていました。

「平成」の場合も、考案した安岡正篤先生が既に亡くなられていたもので、亡くなっている人の案を採用するわけにはいかないのです、再度、山本達郎先生に「平成」を提案してもらった・・・と、竹下登さんが首相を辞めてから話しています。それについて新聞は、「安岡正篤氏を示唆」という表現をしていますし、安岡正篤記念館の荒井桂所長の言として、「安岡先生と同じ案を、のちに山本氏も出したと見るのが自然」と、当たり障りのない言い方をしています。

いずれにしても、「平成」の元号は色が付いていたものを途中から復活させ、「令和」も安倍さんの考え方を付度しながら出て来たというわけです。

新元号の解釈については色々なメディアに出っていますが、外国に対して政府がどのように説明するのか気になっていました。そうしましたら昨日、テレビで特集番組が組まれていて、池上彰さんが「政府は令和について、Beautiful Harmony（美しい調和）と説明したので、とても良いと思っていた」とコメントしていました。対外的には、「美しい調和（Beautiful Harmony）」ということで「令和」が語られるのだなあと思いました。残念ながら、新聞にはそこら辺の報道がすぐに出て来ません。

私は「令和」を字形から解釈しました。四季便りにも書きましたので、皆さんのお手元に届いていると存じます。

「令」は、上からの指示を跪いて承る。命令を慎ましやかに承る、というのが語源から来た意味です。「和」は、ボンと手を叩いたものに、別の人からまた手を叩く。一声出したものに対して、どんどん周りの人がこれは素晴らしいと唱和する、という意味です。そうになると、安倍さんの腹の中にある解釈も推測できますが、それは差し控えましょう。

私は、「令」は天の命ずるところと解釈して、四季便りにこう書きました。「**天が日本**

を良い国になるよう導き、国民が素晴らしいと唱和する」・・・天が、日本が良い国になるよう、日本民族はこういう方向に行くべきだと知ろしめし、そこへ向かって我が国は進んでいく。それを受けて国民が素晴らしいと感じ、新しい時代へ向けて頑張っていく。そう解釈するのが一番素直で良いと思っています。

学びの効用

今日の論語は、学ぶということについて細かく説明しています。学ぶ時は、背筋を伸ばし姿勢を正して人の話をよく聞く。そして、心に残ったものはしっかり後で調べる。そういう学びに対する気持ちを身体に染み込ませることが肝心です。

では、論語の解説に参ります。本日は陽貨篇 8～9 です。

【八】子 曰く、由や、女 六言の六蔽を聞けりやと。対えて曰く、未だしと。曰く、居れ、吾 女 に語げん。仁を好みて学を好まざれば、其の蔽や愚なり。知を好みて学を好まざれば、其の蔽や蕩なり。信を好みて学を好まざれば、其の蔽や賊なり。直を好みて学を好まざれば、其の蔽や絞なり。勇を好みて学を好まざれば、其の蔽や乱なり。剛を好みて学を好まざれば、其の蔽や狂なりと。

学ぶということについて、子路が孔先生から言われた教訓です。

孔子が子路に尋ねた。「お前は、六言の六弊を聞いたことがあるかね。」

子路が「まだです」と答えた。

孔子が言われた。「ここに座りなさい。それでは教えてやろう。仁徳を積もうとしても、学ぶことをしなければ、他人から馬鹿にされる。知識を沢山取り入れても、学び方が分からなければ、とりとめがなくなってしまう。誠実であろうとしても、学問が出来なければ、自分自身を壊してしまい他人にも弊害をもたらす。正直に生きていても、学問が身につけていなければ、堅すぎてガチガチになってしまう。勇気があるけれども、学問が身につけていなければ、世の中を乱してしまうことになる。堅強であっても、学び方を身に付けなないと、狂気になるものだ。」

「剛を好みて学を好まざれば、其の蔽や狂なり」という部分を考えると、明治維新の時は皆、狂気になったわけです。狂気になった人達によって明治維新は進んだので、一概にすべて狂気が悪いとは言えません。渋澤栄一も論語の一節「明日に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」で狂気になって、高崎城を攻略し、その余勢を借って横浜に乗り込み毛唐を殺しまくる…という計画を立て、実行寸前で中止したという事実があります。狂気とい

うのは世の中を変えるエネルギーにもなるから、ここらへんは内容をよく考えて、ご自分で上手に活用されるが良いでしょう。

ここは、何を好んでも何をやっても、すべて学問が根底にないといけない、とお考え下さい。

話が逸れますが、新1万円札の肖像が渋澤栄一に決まりました。先日、シムックスの社員が、こんなことを言っていました。新札になった渋澤栄一は、会長の話の中でよく聞いていた。元号の考案者で名前の出た石川忠久先生は、中斎塾フォーラムの講演会で話をされていた。・・・シムックスはそういう人達とお付き合いのある会社なのだと思いますら背筋がゾクゾクしたというのです。

中斎塾フォーラムの学縁で元号に関係しておられるのは、今回の石川忠久先生お一人ではありません。先ほど「平成」は安岡正篤先生と申しましたが、公益財団法人郷学研修所・安岡正篤記念館の安岡正泰理事長も荒井桂所長も中斎塾フォーラムの顧問・参与です。また、石川忠久先生の前に斯文会の理事長だった宇野精一先生も元号考案者のお一人です。私と猪瀬相談役は宇野先生の講義をお聞きしたことがありますし、何度かお話しをさせて戴きました。確か、猪瀬相談役が宇野先生に、先生の話は難しいので私にも分かるように説明して貰えませんかとお願したところ、「君ねえ、論語を優しく説明するなんて、そんな難しいことはないんだよ」と言われました。大学者の先生は学問の話は出来るけれども、実経験がありませんから、現実に即した話をするのは難しいのだろうと私は思っています。ちなみに宇野先生のお父様の宇野哲人先生は、「浩宮」さまの名前を考えられた方です。ということで、皆さん中斎塾フォーラムに縁のある方々です。

【九】子^し曰^{いわ}く、小^{しょう}子^し、何^{なん}ぞ夫^かの詩^しを学^{まな}ぶこと莫^なき。詩^しは以^{もつ}て興^{おこ}すべく、以^{もつ}て観^みるべく、以^{もつ}て群^{ぐん}すべく、以^{もつ}て怨^{うら}むべし。之^{これ}を遷^{ちか}くしては父^{ちち}に事^{つか}え、これ^{とお}を遠^{きみ}くしては君^{つか}に事^{つか}え、多^{おほ}く鳥^{ちょう}獸^{じゅう}草^{そう}木^{もく}の名^なを識^しる。

ここは、詩を学ぶ効用を言っています。

孔子が弟子達に言われた。「お前たち、どうして『詩経』を習わないのかね。『詩経』を身に付ければ、ものを喩えることも出来るし、世の中のことがわかる。友達と励まし合うことも出来るし、政治を批判することも出来る。身近なことでは両親に仕え、遠いところでは主君に仕え、鳥や獸、草木を覚えるのにも役に立つ。」

詩（歌）は良いものだと言っています。先ほど申しました大宰府天満宮の奉納吟詠では、200人位が集まって菅原道真の詩を吟じました。私も「漫言」を吟じさせて戴きました。漢詩も詩（うた）です。「令和」の典拠となった万葉集も歌です。我々日本人は、漢詩を吟じたり和歌を詠んだり、歌というものが心の中にしっかり根付いている国民性だと思います。

万葉集には、天皇陛下から一般庶民に至るまで数多くの人の歌が収められています。ですから日本人の大和心を出していくのに、万葉集から元号を選んだことはとても良いと思っています。また、万葉集は政治の裏面史を語ると言われています。日本書紀や古事記は天下を取った側の記録ですから、全てが事実ではないと考えた方がよいでしょう。為政者が歴史を変えて後世に伝えるというのはどこの国でもやっていることです。万葉集を専門に研究している友人によると、万葉集には日本の政治は裏側から見るとこういうものなのだろうと推測できる詩がかなりあるということです。来月、その友人に会って詳しく聞いてみたいと思っています。歴史は、表から見ると裏から見ると見方もあるわけです。裏面史についてはあまり取り上げられませんが、そういう見方もあるということを入れておくと、万葉集の見方が変わってくると感じます。

紹介書籍・恒例の質問

それでは後半の講話に参ります。初めての参加者もおられるので、前回は紹介した本ですが、追加で回覧致します。『王位継承式典全記録 平成の大礼』という毎日グラフの別冊です。今上天皇が即位された時の写真と記事が載っています。これを見ると、今上陛下が即位された時は、とても今のような雰囲気ではなく、14発の迫撃弾が皇居に向かって発射されたり、各地で反対集会があり、ゲリラ事件が40件起きた・・・という記録がありますので意識して御紹介します。

それともう一冊、『17都県放射能測定マップ+読み解き集』（みんなのデータサイト出版）を御紹介します。今、日本はどのように放射能汚染されているかが分かるマップです。政府がこういうものを出さないから、民間の団体が努力して出すことになるのでしょう。

では、恒例の質問を致します。ここひと月くらいでお考え下さい。

○ ここ一ヶ月、良い日が続いていると思う方

手が挙がらない方がおられました。人生は、おぎゃあと生まれてからずっと順調に行くということは有り得ません。途中でガタンと落ちて、そこから這い上がるのが本物だと思います。以前、電力の鬼と呼ばれた松永安左エ門の話をしました。ひとかたの人物になる

ためには三つの体験が要る（大病を患って生きるか死ぬかの思いをする、投獄されて孤独を味わう、倒産をして仕事なくなる）・・・そこまでとは言いませんが、似たような体験をしたなら、深く受け止めて、次へのパワーになると思って下さい。そう考えれば、すっと手が挙がるはずです。

誰でも、この質問をされるとなかなか手が挙げられない・・・というものがありますね。そういう時は質問の内容を深く考える時間が必要だと思います。ですから、<良い日が続いたか>という質問も、表面の話だけでなく、もっと深く考える必要もある。そうお考え下さい。

- ここ一ヶ月、嘘をつかなかった方
- ここ一ヶ月、有難うと言ひ、有難うと言われることが当たり前だった方
- ここ一ヶ月、健康法もずっと続いている方

ちなみに、今朝、道場で棒術の稽古がありました。梅川代表幹事と福島幹事が参加されました。なかなか継続するのは難しいのです。健康法も、毎日やろうと思ってやっている間は本物ではなくて、無意識のうちに健康法を実践しているところまで行けば文句なしですね。無意識で身体を動かすことに慣れている人は、スリムでそれほど不健康な生活はしていないように感じます。

- ここ一ヶ月、自分磨きをずっと続けている方
 - 昨晚、明日以降を過去形でイメージして眠れた方
- だいぶ手が挙がるようになりました。結構なことです。

日本の国は今、どうなっているか

時事評論に参ります。日本の国は今、いったいどうなっているかを考えます。一つのキーワードとして、「御代替わり（みよがわり）」があります。

今、世界の国の数は196ヶ国です。その中で王室、皇室がある国は40ヶ国だそうです。その中で、御代替わりが行われた例をみると、2013年にローマ法王ベネディクト16世が高齢を理由に退位をされました。600年ぶりということです。日本の場合は200年ぶりに譲位という言葉が出ました。

「退位」と「譲位」の違いについて、天皇陛下も皇后陛下も「譲位」という言葉を使っておられますが、メディアは「退位」・「即位」という言い方をしています。皇后陛下は、メディアの「生前退位」という文字を見て衝撃を覚えたという報道が若干ありました。「生前退位」という言葉は、皇室の歴史の中では無いそうです。メディアが使う「生前退位」という言葉については、私は疑問符をもっともう少し調べようと思っています。皇室の歴

史を見れば、御代替わりは後々「譲位」という言葉で統一されるだろうと考えます。憲法が変わらないうとなかなかそういう言い方にはなりません、変わった瞬間に「譲位」という言い方に変わるだろうと思っています。

今回、天皇陛下が高齢を理由に「譲位」の御意向を伝えられたことについては、国民も、外国からも共感できるという意見がほとんどです。ちなみに、天皇陛下が即位された時には、花柳幻舟という舞踊家が天皇制は差別の根源だと天皇制廃止を唱え、即位のパレードに爆竹を投げてマスコミで取り上げられました。回覧している『王位継承式典全記録 平成の大礼』には、盾を持った警官がずらっと並んで、その前に活動家が大的字になって道路に寝そべっている写真が大きく出ています。また、14発の迫撃砲が皇居に向かって発射されたという記事や、全国各地40箇所ゲリラ事件が起きたとあります。

こういう事件を天皇陛下は忘れてはおられないわけです。皇太子時代には、沖縄訪問の際、火炎瓶を投げつけられています。勿論、そういう人間は正しいと信じて行動しているわけです。

ですから、天皇陛下はご自分が即位されるにことについて、国民の中でも相当反対があるのだと身体で受け止められた。だからこそ象徴天皇の務めを考え続け、全身全霊をもって実行していかれたということだと思います。それだけの重みが「御代替わり」という言葉にはあるわけです。

今回の御代替わりで一番驚いたのは、天皇陛下の譲位についてメディアの報道を見ても国民が誰も反対していません。あれだけの御高齢でよく公務をなされたという話ばかりです。天皇制がずっと続くということに、誰も異を唱えません。共産党でさえ、あれだけのご高齢で譲位されるのは自然のことだと、天皇制打倒などとは言っていません。天皇の存在を認めない政党が、もう、反対を出来ない状況下になったわけです。それは、天皇陛下が全身全霊をもって象徴天皇としてお務めになって来られたからだだと思います。

そういう日本の国というものを、外国から見たらどうなのだろうか、それが今とても気になるところです。

日本の皇室は、世界から見るととても特殊な制度です。血筋がこれだけずっと続いている国は他にありません。そして元号があるのも日本だけです。元号はもともと中国で出来たわけですが、今、元号を使っているのは日本だけです。

日本の特徴は、外国の良い文化・文明を取り入れて、咀嚼し吸収して日本独自の文化に作り変えて後世に伝えていきます。こういう能力を持った国はありません。それが一番分か

るのは日本語です。中国の漢字を取り入れて、それを元にして平仮名が生まれ、片仮名が生まれ、ローマ字が生まれ、全部日本語として吸収しています。日本語を研究する学者からすると、日本という国体を表すのに、日本語を説明するのが分かりやすいそうです。

ですから日本という国は、世界と比べて全然違う国なのだと思います。例えば、鈴虫の音色を聞いて四季を感じる・・・そういう国は他にありません。欧米人には雑音にしか聞こえないそうですから、中身が違うみたいですね。

ということで、「御代替わり」は、改めて日本の国を考えるきっかけになるし、自分自身の日本人としてのアイデンティティーが何処にあるかを考えるきっかけになるし、日本民族は何処から来たか、これから何処へ行くのかを考えるととても良いきっかけになると思います。それを一言で言うと、「令和」という言葉になるのだと思います。

少子高齢化で見えるもの

では、時事評論に参ります。今、日本はどうなっているのか。少子高齢化というキーワードで見る必要があります。

少子高齢化で今、何が起きているか。国はお金がないから税収を増やさなければならないわけです。

・厚生年金未加入 労働者 156 万人に (4/6 上毛新聞)・・・「40 万事業所、加入逃れ疑い」とあります。厚生年金の加入は義務化されているにもかかわらず、40 万の会社が払っていない、何とけしからん！と思わせるような書き方です。こういう書き方はおかしいですね。払いたくてもお金がなくて払えない、悲鳴をあげている会社もあるわけです。そういう会社がどれくらいあるか、新聞社はそれを調べて事実を出すべきだと私は思います。

更に厚生年金に関して、日経新聞のコラム「きょうのことば」(4/16)を見ると、「厚生年金に加入すると、老後に年金が受け取れる以外にも保障が受けられる」とありますが、具体的な説明は書いていません。また、「15～64 歳の就業者数は 54 万人減ったのに対し、65 歳以上では 309 万人増加した」・・・と、とても結構なことだという書き方をしています。

同じく日経新聞の 1 面、「厚生年金加入、70 歳以上も 納付義務を検討」という記事。現在、70～74 歳で働いている人は 129 万人、75 歳以上で 53 万人いるから、この人達にも保険料を払って貰おうと検討しているという内容です。75 歳まで加入した人はこれだけメリットがあります・・・と、良いことを一所懸命書いていますが、なぜ政府がそうしようとしているのかについては何も書きません。

今の日本の新聞は、事実を事実通りに伝えない、相当レベルの低いものに成り下がって

いると感じます。

・「健康経営」投資家が評価（4/12 読売新聞）・・・健康経営について経産相が実施計画をまとめたとあります。健康投資を会計書類に反映する仕組みを導入して、企業を対象に補助金制度を行うというわけですが、何のことはない、年寄りにかかる金を減らそうということです。

収入は増やしたい、余計な金を使いたくはない、という政府の思惑がもろに出て来ている。消費税については、10%がどんどん進んでいるにもかかわらず、昨日、延期も有り得るというアドバルーンが上がりました。全くけしからんことをすると思います。

いずれにしても政府は「入るを量りて出ざるを制す」という大原則にあわせて動いている。但し、やり方を間違えている。私はそう思っています。歴史を見ても、増税は国を減ぼす。国が苦しくなったら税収を下げるというのは、哲学者や経済学者の言にも明らかです。そういうことを今の政治家は勉強しないのでしょうか。

ということで、厚生年金、消費税、予算カット、政府の負担減・・・こういったものが少子高齢化で見えてきます。

そしてもう一つ見えるのが、働き手が少なくなるから、外国人労働者を増やそう、高齢者や女性に働いてもらおうという動きです。

通貨の消滅

今、世の中はどんどん変わって来ています。その大きな流れは、通貨の消滅です。私は七、八年前から、通貨はもう消滅する時代に入ったと申し上げていますが、今はそれを色々な雑誌等が言い出しています。

通貨が消滅するとどうなるか。今朝の読売新聞に面白い記事がありました。野村ホールディングスの永井CEOがインタビューに答えて、危機感をあらわにしたとあります。「最近は駅前の好立地店でも、一日の来店者が一桁。伝統的な投資銀行ビジネスモデルが崩壊してしまった」と書いてあります。通貨が消滅したら、銀行の店舗はなくなるわけです。それから証券会社も同じです。

今、銀行は店舗を減らしたり、合併は何処とすればよいかを探っている状況です。ですから、お金に関係する所はどんどん変わって来ています。

更にお金に関して、面白い記事がありました。

・賃金 電子マネー解禁へ（4/12 読売新聞）・・・労働基準法は賃金について「通貨で、直接労働者に全額を支払わなければならない」と規定し、現金払いを原則としている。その上で例外として、省令により銀行などへの口座振り込みを認めている・・・とあります。口座振り込みは例外措置なのですね。それによって日本の家庭から、給料袋を渡して「お父さん御苦労さま」という光景がなくなっていました。それが今度は電子マネーです。

この間、テレビの街頭インタビューで日本に来た外国人が、日本ではまだ現金が使われているので懐かしく感じたと言っていました。中国に行った日本人が屋台で売っている鯛焼きを買おうと思ったら、現金が使えないので困ったという話も聞きます。ですから、もう他の国は現金が使えない時代になっています。日本もそう遠くないうちに現金がなくなります。

今回、渋澤栄一さんが新1万円札の肖像に決まりましたが、私はそのニュースを見た瞬間、昭和21年2月17日の預金封鎖が浮かびました。以前、イオンを創ったと言われる小島千鶴子さんの話を致しました。当時、イオンの前身の岡田屋は四日市の呉服店で、空襲で丸焼けになりました。社長だった彼女は、戦争で負けたドイツはハイパーインフレが起きて銀行が封鎖されたということを学んでいました。そして、日本も同じことが起きると考えて、有り金を集めて商品を買いたったのです。それが21年1月のことです。翌月2月17日には預金封鎖で旧円が使いなくなり、3月に岡田屋を再開したところ客が殺到し、新札がどっと入って岡田屋を一気に発展させ、弟（岡田卓也）に引き継がせた・・・という実例があります。将に、学びの実行と効果ですね。

私は、そういう時代がまた来ると思っています。これから、現金は通用しなくなります。ですから現金ではないものをお持ちになった方が良いでしょう。具体的なものは、今後少しずつお話して参りたいと存じます。